

医師会だより



献血にぜひ協力ください

人々の善意による「献血」

減つてはいます。コロナ禍の中で献血者が減つてはいます。このため、献血の協力をお願いしています。献血は、血液の不足を補うために必要です。献血は、血液の不足を補うために必要です。献血は、血液の不足を補うために必要です。

16歳から69歳まで可能

献血は16歳から69歳まで（65歳以上は一定の条件付き）の健康な人であれば、誰でも可能です。献血は、血液の不足を補うために必要です。献血は、血液の不足を補うために必要です。献血は、血液の不足を補うために必要です。

「あなたの笑顔が必要です！」大村市医師会潜在看護師研修事業

看護師への復職を考えている方、復職のための研修を受けてみませんか。詳しくは大村市医師会まで。

ていいます。安全な血液製剤を供給するために、検査や聴取が採血前に日常生活や病歴が服用薬などを詳細に聴取し、提供された血液の輸血適否の検査を行います。献血者は健康管理のため、血液検査（赤血球数など）の結果を後日希望者全員に郵送してまいります。

200mlと400ml献血

全血献血には200mlと400ml献血（16歳から）と400ml献血（18歳から）があります。献血は、血液の不足を補うために必要です。献血は、血液の不足を補うために必要です。献血は、血液の不足を補うために必要です。

常設ルームと献血バス

県内では長崎市浜町（献血ルームはまのまち）、佐世保市上京町（献血ルーム西海）の2か所に常設の献血ルームがあります。また、献血バスが配車センターから各地で採血を行ってまいります。毎日の配車場所や時間帯などは同センターのホームページで確認できます。

献血者の減少で医療に影響

全国で1日約3千人が輸血を必要としており、1日約1万3千人の献血者が必要です。しかし、少子高齢化などの影響で10〜30歳代は次第に減少し、最近ではコロナ禍で追い打ちをかけた医療に重大な影響が出ています。

献血ウェブ会員サービス

献血促進のため、献血ウェブ会員サービス「ラブラッド」が開設されており、登録すると献血予約や、献血の速やかな参照など、検索機能が速く、血液製剤の安定供給には特に多い世代の協力が必要で、協力をお願いします。

あなたは大丈夫？「ロコチェック」で、いますぐ調べてみませんか？

筋力不足、回復に時間がかかると、日常生活で運動が難しくなる可能性があります。ロコチェックは、筋力不足を早期に発見し、適切な運動や栄養指導を行うことで、筋力不足を改善し、日常生活での運動を楽にするためのサービスです。

① 歩く ② 階段をのぼる ③ しゃがんで立ち上がる ④ 歩く ⑤ 階段をのぼる ⑥ しゃがんで立ち上がる ⑦ 歩く ⑧ 階段をのぼる ⑨ しゃがんで立ち上がる ⑩ 歩く ⑪ 階段をのぼる ⑫ しゃがんで立ち上がる

【医心伝心】これから夏本番、急な運動は関節、筋肉痛と熱中症を引き起こす可能性があります。体力に過信することなく、少しずつ体を元に戻してください。

山田整形外科
スポーツクリニク
院長 山田 昌登嗣